

学校教育への臨床心理学的支援

最終更新日：2015年8月20日

教育心理学講座
教授
中島 義実

キーワード

臨床研究 教育界を支援する臨床心理学 教育相談

研究シーズの説明 (私は、このような研究に取り組んでいます。)

私は臨床心理士です。

スクールカウンセラーの経験があり、精神科等の医療機関で働いた経験もあります。

土居健郎先生が言われるように、私たちにとりましては、臨床が、即、研究です。

ですから、本学教員としての私の場合、学校現場において日々生じている様々な問題に、臨床心理学的に支援を行っていくことが、そのまま研究ということになります。

学校の先生向けの研修も、できる限り臨床的なものとなるようにして参りました。受講して下さった先生方が、少しでも、明日からの歩みに元気をもっといただけるように努めて参ったつもりです。

インタビュー調査やアンケート調査も行って参りましたが、不登校対策などにおいて、担任の先生方やミドルリーダーの先生方が、現場で動かれるときにお役にたてるようなものに取り組んでまいりました。

様々な学校に出向き、保護者の方々や先生方からのご相談をお受けすることもしてまいりました。

また、適応指導教室に通う子どもたちの現状について、面談や心理検査を通してアセスメントを行う仕事にも取り組んで参りました。

これらの仕事において、何よりも大切となるのは「対話」ということになります。

様々な方々と、どのようにして対話に臨むのがよいのか、その点にこだわりながら日々追究しております。

今の教育界は、次々とタスクが舞い降りて、メモリ不足のパソコンのようで、フリーズが起きるとしましても、先生方の力量とは全く無関係の問題であるように思われます。

様々なマンパワーが現場に投入されねばならないと思っております。

そうして、まず先生方が、子どもたちと、保護者と、先生方同士と、ゆっくり対話できるようにせねばならないと思っております。

そのようなことの一助にでもなればと思ひ、教育問題の社会的背景にも関心をもっており、いくつかの発信も行って参りました。

成果の応用可能性 (私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。)

臨床心理士としての私がお役にたてることがございましたら、まずご連絡ください。

学校現場に出向きましてのご相談をお受けすることができると思っています。

子どもからのご相談、保護者からのご相談、先生方からのご相談など、様々な形で、お受けできると思っています。

その場合、当該地域のスクールカウンセラーと連携してのことになる可能性もあると思っています。

ご相談の結果、どちらかの、より確かな場(適応指導教室、病院、相談機関、療育機関など)をご紹介させていただくこともあると思っています。

チームを組んであたらせていただくとよい場合があります。先生方の動きやすい形が一番です。

先生方の生徒指導の後方支援のような形がよい場合も多いと思っています。

研修会にお役立ていただくこともできると思っています。

その場合、できる限り臨床的で、現場の実情に即したものを立案するところからさせていただけると、と思っています。

研修会を組むことがかえって、先生方個人の方の動きのお邪魔になってしまうことがあります。

そのような場合は時間的拘束をおかけしない方が、子どもたちのためになると思っております。

子どもたちやご家庭と、最前線の先生方とが直に対話できる時間の確保こそ最優先です。

何事も、上からの義務要請という形では、そのときたまたま弱っている個人にダメージを与える結果となりやすいものです。

講演等にお役立ていただくこともあり得ると思ひますが、同様に、義務要請色がない方が、実のあるものとなるように思われます。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・教育委員会と連携しての「中1ギャップ型不登校」未然防止の実践的研究(平成23年度より継続中)
- ・全国適応指導教室連絡協議会 実践発表における指導助言(平成26年度)
- ・NHK学園高等学校公開講演会「不登校からの歩み出し」(平成26年度)
- ・筑前地区家庭児童相談員研修会講演講師(平成26年度)
- ・大分県教育センター カウンセリング実践研修基礎編講師(平成25年度)
- ・苅田町人権教育研究会健康保障・特別支援部会学習会「受け渡しの確かな連携へ」講師(平成25年度)
- ・福岡県立古賀特別支援学校 教育相談(平成24年度、25年度)